長野の避難所 当面継続

市「閉鎖のめど」今月末以降も

慎重に時期見極めへ

台風19号の被災者255世帯572人（25日時点）が14カ所で避難所生活を続ける長野市で、市が避難所閉鎖のめどとしていた「11月末」以降も、運営を当面継続する方針であることが25日、分かった。応急仮設住宅の入居や自宅の修繕が間に合わない―といった理由で、11月末に避難所を出られない被災者が数十世帯に上る見通しのため。行き先が未定の被災者も複数おり、市は状況把握を続け、慎重に閉鎖時期を見極める。

【14避難所の状況2面に】

長野市の避難所の一つ、北部スポーツ・レクリエーションパーク。市は12月に入っても避難所運営を当面継続する＝25日午後4時13分、同市三才

市は自宅が全壊や大規模半壊、半壊の被災者向けに「少なくとも500戸」（住宅課）の住居が必要だとして、建設型応急仮設住宅、民間アパートなどを活用する借り上げ型応急仮設住宅（みなし仮設住宅）、市営など公営住宅を用意。これまでに、公営住宅は2回の募集で計58世帯が入居し、みなし仮設住宅は24日時点で449世帯の申し込みがあった。市内4カ所に計115戸を整備中の建設型仮設住宅も、16～22日の募集で57世帯が申し込み、51世帯（52戸分）が手続き中だ。

だが市によると、みなし仮設住宅で室内清掃などの入居準備が間に合わなかったり、帰宅予定の自宅の修理に予想以上に時間がかかったりする被災者が少なくない。11月中が完成予定の建設型応急仮設住宅も入居開始は12月1日以降。11月末の避難所解消は不可能な状態だ。

今後の避難所運営方針について市は「個々の被災者の動向を見ながら考えないといけない」（市教委総務課）と説明。各避難所の状況を見つつ、滞在者の少ない複数の避難所を他の避難所に統合することも検討する可能性があるとした。

市は25日、公営住宅（57戸）は市住宅課と豊野支所、建設型応急仮設住宅（63戸）も同支所を窓口に、26日から入居申し込みを再度受け付けると発表した。空き住居がなくなり次第終了する。

政府 河川水位上昇 防止に補助金

経済対策 防災施策概要

政府が12月にまとめる経済対策で検討している防災・減災施策の概要が25日、判明した。台風19号などで大きな被害を受けた施設の復旧と強化を同時に進める「改良復旧」を促進。河川の水位上昇を防ぐ工事への個別補助制度の創設や、市街地地下での雨水貯留施設の緊急整備、豪雨に対応したダム的機能を持つ調節池の整備前倒しも進める。

今年発生した台風15号や19号などの自然災害では、想定を上回る被害が発生した。政府は今回明らかになった緊急性の高い施策を経済対策に盛り込み、2019年度補正予算を中心に集中的に実行する。

台風によって、河川の川幅が狭い場所や本流と支流が合流する地点で、水位が上がり氾濫が相次いだことを受け、水底の土砂を取り除くなど水位を下げる工事を加速。事業を支援する新たな個別補助制度による支援も検討する。市街地では大量の雨水を排出できなかったことなどから、地下に雨水を貯留する施設を緊急に整備する。

災害時の道路輸送を確保するため、寸断リスクの高い道路の代替経路も前倒しで整備する。

長野市内の避難所 【1面参照】

台風19号で開設中の長野市の14避難所と避難者数は次の通り（市災害対策本部まとめ、25日午前7時時点。かっこ内は世帯数）。

【市指定避難所】▽豊野東小25人(12)▽古里小17人(10)▽豊野西小130人(67)▽豊野西部児童センター32人(18)▽長野運動公園90人(38)▽南長野運動公園23人(12)▽北部スポーツ・レクリエーションパーク177人(65)▽昭和の森公園フィットネスセンター46人(17)▽信州新町大門教職員住宅2人(1)▽市営住宅千原田団地2人(1)

【自主避難所】▽豊野区事務所（豊野北公民館）12人(6)

【福祉避難所】▽北部保健センター5人(4)

【二次避難所】▽アゼィリ

飯山市「年度内搬出目標」

3社に委託　降雪時も作業予定

飯山市は千曲川支流・皿川の決壊により中心市街地が甚大な被害を受け、市民生部の推計によると、今回の災害で発生したごみの量は約2300トンに上る。可燃ごみなどの一部は既に市内のごみ処理施設に搬出済みだが、旧城南中グラウンドには高さ4㍍ほどまで可燃ごみが積み上がっている状態で、「1割程度しか片付いていない」（市民生部）という。

このため、可燃、不燃、家電などの種類別に県内の廃棄物処理事業者3社に委託し、16日から順次、搬出作業に着手。足立市長は「家庭から出たごみを仮置き場に搬入する時点で分別ができていたため、比較的スムーズに搬出できるのではないか」との認識を示した。

市は、被災した市内の事業者の再建支援事業として、国や県の支援対象となった事業者に市から補助金を出す方針も示した。関連予算として1億円を盛った本年度一般会計補正予算案を市議会12月定例会に提出する。

仮置き場の災害ごみ

飯山市は25日、台風19号による災害ごみの仮置き場になっている市内の旧城南中学校グラウンドに残るごみの処理を、本年度内に終わらせる方針を明らかにした。足立正則市長は同日の記者会見で「降雪時も作業する予定でいる」と説明。飯山は豪雪に見舞われる冬を迎えるが、大量に残る災害ごみの処理を急ぐ。

旧城南中学校グラウンドに高さ4㍍ほどまで積み上がっている災害ごみ＝25日

「被災の飯山 泊まって応援を」

いいやま観光局が割引パック販売

■宿泊施設料金 最大5000円引き

■森林セラピー 格安の1000円で

信州いいやま観光局（飯山市）は、森林セラピー体験と宿泊を組み合わせた割引パック「いいやま応援割宿泊プラン」の販売を始めた。台風19号で被災した飯山市を多くの人に訪れてもらい、復興につなげようとの願いを込めて企画。鉄道などの交通インフラの復旧が完了し、市内の観光施設が通常営業している現状を知ってもらう狙いもある。

市内の自然体験施設「なべくら高原森の家」を拠点に、ブナ林を散策して心身を癒やす森林セラピーが体験できる。通常は1人4千～5千円ほどの森林セラピーを千円で体験できる他、市内の宿泊施設の宿泊料金を最大で5千円割り引く。同観光局は「飯山に実際に来て宿泊することで、被災地を応援してほしい」と利用を呼び掛けている。

森林セラピー体験は30日午後2時から約90分間行う予定で、前日か当日のいずれかの宿泊料金を割り引く。申し込みは27日まで受け付ける。問い合わせは同観光局営業企画課（☎0269・62・3133）へ。

被災した顧客と「復興まで」

長野・穂保出身 都内勤務の建築士・関さん

ルポ 千曲川氾濫

長野市穂保出身で東京の設計事務所に勤める建築士、関博之さん(40)が、故郷に大きな被害をもたらした台風19号災害を機に、家業の工務店を継ぐ決意を固め、被災した顧客の相談に応じ始めた。父久幸さんが昨年6月に67歳で死去し、休業状態だった。顧客の父親への信頼や、かつて父の下で自身が手掛けた建物への思いを知り「復興まで面倒を見たい」と決めた。

「水道が凍らないよう見ておきますね」。顧客の男性(左)に声を掛ける関さん＝25日午前11時12分、長野市穂保

地元で亡き父の工務店継ぐ決心

「冬になるから、水道が凍らないよう確認しますね」。25日朝、同市長沼地区。関さんは設備業者と共に顧客宅を歩いた。家人が避難している家では冷え込みのため屋内でも蛇口から凍ることがある。対応策を話し合った。

工務店は久幸さんが1993年に開業。長沼地区を中心に一般住宅のほか公民館や寺などの修繕も担った。「お湯が出ない、雨漏りがあるなど夜中に呼ばれることもあり、忙しそうだった」。関さんは父親の姿を懐かしむ。

関さんは会社勤めの後、建築の仕事を志して2009年から9年間、久幸さんの下で仕事を学び、数年前に1級建築士の資格を取った。経験を積むため昨春から東京の設計事務所で勤務。いずれ長野に戻るつもりだったが、個人で設計事務所を開く選択肢もあり、工務店を継ぐかは決めていなかった。

10月13日朝。テレビで見た長沼地区は冠水していた。3日後に帰郷し、自宅を片付けながら父親の代からの顧客宅を自転車で回った。自らがリフォームに携わった家の住人と再会した。浸水したと告げられ「一生懸命やってくれたけどこんなになってしまった」。涙ながらに伝えられた。

内装のデザインは話し合いを重ね、意向を最大限反映させて仕上げた。自身の思い入れも大きかった。落ち込んでいる顧客の様子に、気持ちを揺さぶられた。「ここも見てくれ」。他の顧客からも相談が相次ぎ「無責任ではいられない。復興まで関わりたい」との思いが強まった。

実家や工務店の車庫、軽トラックも浸水被害に遭った。片付けを母福枝さんらに任せ、妻や子どものいる埼玉県とを行き来しながらの生活。2代目の仕事はこれからが本番だ。「住宅のことを何でも相談できる存在になりたい」と目標を話した。

（片岡 絵理）

10月に被災した車 長野など4県1225件

JAF救援作業数

日本自動車連盟（JAF）は25日、台風19号と10月25日の大雨で被災した車について、救援作業を実施した件数が福島、栃木、千葉、長野の4県で1225件に上ったと発表した。「件数の多い県のみを集計した」としており、宮城県などの数字は公表していない。

内訳は、福島県が10月15～31日の17日間で384件。ほかの3県はいずれも10月15日～11月2日の19日間で、栃木361件、千葉265件、長野215件だった。ほとんどが走行不能な状態で自宅や整備工場にけん引したという。

JAF広報部は「冠水した車両は、漏電で火災が発生する危険がある。いきなりエンジンキーを回さないなど注意が必要」と呼び掛けている。

復興への合言葉は「ONE NAGANO」

県などがロゴマーク

県と県市長会、県町村会など5団体は25日、長野市の県庁で記者会見を開き、台風19号災害からの復興への参加と協力を呼び掛けた。災害への対応が応急的なものから本格的な復旧に移りつつある中、産業の再建も含めてボランティアらの中長期的な協力が不可欠だとして、合言葉「ONE NAGANO（ワン・ナガノ）」とロゴマークを発表した＝写真。

会見に出席した阿部守一知事は、県内でこれまで延べ約5万人が活動したボランティアや義援金などの協力に対して感謝を述べた。その上で、被災した人たちが避難所から公営住宅などに移り始めるなど復旧は新たな段階に進んでいるが、「まだ多くの皆さんの協力が必要」と指摘。被災者に寄り添う―という思いも含め「メッセージを出し続けていくことが重要だ」とした。

ワン・ナガノは今回の災害で、ボランティアや自衛隊、長野市などが連携して同市東北部の災害ごみを撤去した活動の名称。今後は復旧・復興に向けた活動全体の合言葉とし、ボランティアの参加協力や被災地の農産物購入を呼び掛けたり、観光誘客を進めたりする際に活用していくという。